

# 志位委員長と野田代表が会談で一致点

日本共産党の志位和夫委員長と「社会保障を立て直す国民会議」の野田佳彦代表が3月26日、国会内で会談し、新型コロナウイルスの対応や政権交代への方向性、選挙協力で一致しました。



会談する日本共産党の志位和夫委員長(右)と「社会保障を立て直す国民会議」の野田佳彦代表。  
3月26日・国会内

## 立憲主義、格差是正、多様性の尊重

両氏は、「新型コロナウイルスから国民の命・健康・暮らしを守る取り組みに主力をあげる。とくに、政府の自粛要請で苦境に陥っている事業者・個人に、『感染防止対策』として思い切った予算措置をつけ、抜本的な直接支援を行う」よう政府に求めることで一致しました。

また「安倍政権を倒して、また「安倍政権を倒して、

①憲法にもとづき民主主義、平和主義を回復させる、②格差をただし暮らし第一の政治をつくる、③多様性を大切に個人の尊厳を尊重するといふ三つの方向で政権交代を図るために協力していく」との認識でも一致しました。

## 野党間の相違点についても議論

また、志位氏は野党連合政権にのぞむにあたって、他の野党とのあいだの政治的相違点についてどういう対応を取るか、日本共産党の立場を説明しました。

会談は志位氏が呼びかけたもので、「自衛隊や日米安保

条約、天皇の制度、社会主義・共産主義などについて、日本共産党は独自の主張を持っており、それぞれを大いに主張していくが、野党連合政権には持ち込まず一致点で政権運営をはかるとの立場」であることを詳しく明らかにしました。

## 自衛隊についても意見を交わす

野田氏は、志位氏の説明について「承りました」「共産党さんがずいぶん変わったって、きたといろんな場面実感します」と述べた上で、自身の父親が自衛官だったことについて「もうちょっと自衛隊の存在を肯定的に認めてはどうか」と感想をのべました。

志位氏は自身の伯父が自衛官だったことにもふれ、「災害救援で汗を流しておられる個々の自衛官に、私はリスクの気持ちを持っています。それが伝わるように努力したい」と表明しました。

## 日本共産党地域支部が危険な国道を調査 まさに「命がけ」安全な道路へ改善は急務

船橋市を走る国道296号線(通称・成田街道)は道幅が狭く、歩道もないため歩行者や自転車は「命がけ」です。

党前原東支部が実際に歩いて現地調査を行いました。成田街道は、匝瑳市八日市場から船橋市宮本の国道14号線までを結ぶ県管理の道路で、大型車もひんぱんに通る幹線です。

がほとんどないため、歩行者は側溝のふたの上を歩かされ、自転車の走るスペースもありません。タクシー運転手も「自転車走ると怖い」と話しており、歩行者や自転車の安全確保は急務の課題です。

## 安倍退陣スタンディング2周年

船橋駅南口の「安倍内閣退陣を求めるスタンディング」(南口シャウト)が3月13日で2周年となりました。始まりは、森友学園疑惑をめぐる安倍総理発言を付度した公文書の改ざんで財務省職員が自ら命を絶った事件でした。一人の女性がこの事件を知って「安倍総理は許せない。何とかアピールしたい」と声を上げたの始まりでした。最初の1年は、毎日駅頭に立ち続け、2年目は3の付く日に実施。この日で391回目となりました。

「一人一人が声を上げれば政治を変えることができる」——それが実感できる場所ともなっています。この日もマイクをリレーして、新型コロナウイルス対策で、誰の意見も聞かずに権力を振りかざし、国民生活に重大な影響を与えている安倍内閣退陣を呼びかけました。



2周年目のスタンディングに参加する齊藤和子前衆院議員(左から3人目)と丸山慎一前県議(その右)。  
3月13日・JR船橋駅南口



歩道がなくて危険な国道を調査する日本共産党前原東支部のみなさんと丸山慎一前県議(右から2人目)。  
3月27日・船橋市内



車の交通量が多い成田街道で縫うように走り抜ける自転車。安全の確保は急務の課題となっている。  
3月27日・船橋市内



成田街道は道幅も狭いため、歩行者をかすめるように大型車が走り抜けていく。  
3月27日・船橋市内